

令和6年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	41	学校名	県立鹿島灘高等学校				課程	定時制			学校長名	井上 宏孝				
教頭名	菅谷 則行 (昼)			石川 正幸 (夜)							事務長名	田山 みどり				
教職員数	教諭	25	養護教諭・ 養護助教諭	2	常勤 講師	7	非常勤 講師	7	実習助手	1	事務職 員	3	技術職 員等	5	計	54
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科		33	18	24	13	19	12	2	0	78	43	11			

2 目指す学校像

- 創意と活力に満ち、生き生きと学ぶことのできる安全・安心な学校
- 一人一人を生かし、個性の伸長を図ることのできる学校
- 生徒自らが自信と誇りを持ち、活力にあふれる学校
- 地域に根ざし、信頼され期待される学校

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・自立して社会人として地域に貢献できる人材 ・生活力を身に付け、強く生きる力を身に付けた人材
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・単位制の特性を生かし、創意ある教育課程において主体的に学ぶ姿勢と確かな学力の育成 ・豊かな人間性を培うとともに、生涯にわたり学習する意欲と態度の育成 ・コミュニケーション能力と、積極的に社会に参加し貢献する態度の育成
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・物事に対して誠実に取り組み、自己成長のために日々努力できる生徒 ・公共心に富み、周囲への配慮や感謝の気持ちを忘れずに行動できる生徒

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	義務教育段階での学習内容が十分に定着していない生徒や特別な支援を要する生徒が多く、学習に取り組む姿勢や学力の差が大きい。「KASHIMANADA プラン」による一人ひとりの学びのサポートのために、少人数授業や英語・数学における習熟度別授業による「分かる授業」を実施している。スモールステップによ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業と連携しての資格取得の促進 ・「分かる授業」に向けた指導法の改善 ・「個に応じた指導」に向けての工夫及び改善 ・特別支援学校との連携による指導体制の改

別紙様式 1 (高)

生徒指導	<p>達成感の積み重ねが学習意欲の向上に効果的に作用している。</p> <p>全体的には落ち着いた学校生活を送っている。不登校の経験者、基本的な生活習慣や対人関係に課題を抱える生徒が多いが、教育相談体制の充実や教員の手間を惜しまないきめ細かい指導により欠席日数が減少している。</p>	<p>善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を共有し、全職員による共通理解に基づいた生徒指導 ・教相部等と担任との連携強化による不登校解消率の向上 ・体験的行事への参加率向上と規範意識の高揚
進路指導	<p>進路意識の高揚を目指すとともに、キャリアアップを図る目的で進路行事を計画的に行っている。</p> <p>個々の進路相談をこまめに受け付け、また総合的な探究の時間を有効に使うことで、基礎学力の定着や面接指導の充実等、体系的なキャリア教育を推進し、進路決定につなげている。</p> <p>特別な支援を要する生徒について、中学校から個別の支援計画の引継ぎを行い、キャリア教育、就労支援に活用することができるようになった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路行事への参加率の向上 ・進路決定及び定着に向けた指導の充実 ・基礎学力の定着及び進路意識の高揚 ・個別の支援計画を活用した進路指導の工夫及び関係機関との連携の強化 ・中学校との連携の強化
特別活動	<p>自尊感情や自己肯定感を高め、社会の一員としての存在を感じ、積極的に社会参加ができるよう学校行事の工夫改善等を行っている。部活動に加入している生徒は日々熱心に練習に取り組み、全国大会出場などの成果を上げている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験型の学校行事やボランティア活動参加率の向上 ・コミュニケーション能力の育成及び社会性の涵養 ・キャリアパスポートの活用による達成感や連帯感の涵養
働き方改革	<p>勤怠管理システムによって超過時間の把握がしやすくなり、職員の意識も高まってきた。ホームルーム担任や年次主任は、家庭訪問等、生徒対応で退勤時間が遅くなりがちである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用や業務内容の精選等、業務の効率化による生徒対応のための時間確保。 ・振替時間の適切な運用

5 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 単位制の特性を生かした創意ある教育課程により、主体的に学ぶ姿勢と確かな学力の育成を図る。 2 豊かな人間性を培うとともに、生涯にわたり学習する意欲と態度を育てる。 3 コミュニケーション能力の育成を通して、積極的に社会に参加し貢献する態度を育てる。 4 職員の適性を生かした校務分掌を配置し、情報共有化を図るとともに職務の均整化を図り、働き方改革を進める。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 基礎学力の定着と「分かる授業」の創意工夫	<ol style="list-style-type: none"> (1) 各種検定等の受検を奨励し、授業と連携しながら合格者の増加を図り、主体的に学ぶ学習態度の育成を目指す。 (2) 生徒の実態を踏まえた指導内容の精選、個に応じたきめ細かい指導体制の工夫及び改善を図ることで、「分かる授業」を展開し、基礎学力の定着を目指す。

別紙様式 1 (高)

	<p>(3) 授業公開週間を設定し、教員相互の授業参観を行う等校内研修を行い、授業改善推進チームを中心に、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を推進する。「生徒による授業評価」の授業満足度は、平均3.2%以上を目標とする。</p> <p>(4) 授業でのICT活用促進化の校内研修を推進し、授業に対する生徒の興味関心や理解力を高める。</p>
2 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚	<p>(1) あいさつ運動やマナーアップ運動、遅刻指導等を通して、基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>(2) 生徒への日常の「声かけ」を重視し、望ましい人間関係を構築することにより、規範意識の高揚を図るとともに、予防的・発達支持的生徒指導を実践する。</p> <p>(3) 職員の共通理解に基づき、生徒自ら時と場に応じた身なりができるよう、日頃からの服装・頭髪の指導を推進する。</p>
3 特別活動の充実	<p>(1) 体験型の学校行事の充実を図り、キャリアパスポートの活用等を通して、達成感や連帯感の涵養と、豊かなコミュニケーション能力と積極的に社会参画しようとする態度の育成を図る。</p> <p>(2) SHR、LHRの充実を図るとともに、個人面談(4回/年)等を実施することで生徒理解に努め、心の居場所としてのHR経営を工夫する。</p> <p>(3) 生徒の部活動や学校行事等への積極的な参加を促し学校の活性化を図るとともに、キャリアパスポートを作成し、社会性やリーダー性を育てる。</p>
4 進路指導の充実	<p>(1) 全職員によるきめ細かな指導や各種セミナー、見学会等を改善充実させることにより、生徒の進路意識を高揚させ、進路決定率の向上、定着率の向上を目指す。</p> <p>(2) 進路行事の充実により、一貫したキャリア教育の体系を構築するとともに、個々の進路実現に向けた基礎学力の定着、面接指導の充実を図る。</p> <p>(3) 特別な支援を要する生徒に対し、生涯にわたって自立し、社会参加していく力を育成するために特別支援学校、企業、社会福祉等の関係機関と連携を強化し、キャリア教育と就労支援を推進する。</p>
5 カウンセリングの充実	<p>(1) 常時相談に対応できる教育相談体制の継続と、相談室と担任等との連携強化を図る。</p> <p>(2) カウンセリングコーディネーター、スクールカウンセラー、養護教諭、キャンパスエイト等が相互に連携し生徒の心に寄り添うことで、一人一人が充実した学校生活を送れるような支援を目指す。</p> <p>(3) 個々の生徒について教職員全体が共通理解をもって指導に当たれるよう、専門的知見も交えた研修の一層の充実を図る。</p>
6 開かれた学校づくりと地域との連携の推進	<p>(1) 地域ボランティア活動への参加や積極的な学校公開、聴講生(陶芸、書道、中国語)制度の活用により、学校・家庭・地域社会が一体となった教育活動を推進する。</p> <p>(2) ボランティア活動、防災訓練等の学校行事に保護者・地域住民が参加できるよう工夫改善し、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>(3) 広報紙や学校HPを通して、本校の特色を積極的に広報し、フレックススクールとしての特色ある活動への理解と協力を得る。</p>
7 働き方改革の実践	<p>(1) ICT活用により業務の効率化をさらに推進する。</p> <p>(2) 会議回数の削減・スクラップ業務の精選と実践、年休取得率の向上を目指す。</p>